

「小学校のあり方について」南加積校区懇談会

- 1 日 時 令和4年4月10日(日) 14時00分～15時30分
- 2 場 所 上市町文化研修センター 3階大会議室
- 3 参加者 32人(会場参加29人・オンライン参加3人)
- 4 出 席 中川町長、牧田教育長、小池総務課長(司会)、
碓井企画課長、平井教育委員会事務局長
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会挨拶(中川町長)

4年半前の町長就任時においては、私は「各小学校は各地域の核であり、何とか存続させるべき」という思いを持っていた。しかし、国全体で少子化が進行し、日本の新生児数は84万人、上市町の昨年1年間の新生児数は70人程度となり、非常に厳しい状況となっている。こうした状況で、学校のあり方がこれでいいのか、疑問を持った。昨年生まれた子供が小学校にあがったとき、町内の6つの小学校全体で(1学年)70人、1校単純平均では12人程度の人数となる。本当にこうした状況でいいのか。

町では、白萩西部小学校と陽南小学校を小規模特認校として指定し、町内どこの地区からでも来ていただける学校として運用してきたが、「あの学校で我が子を勉強させよう」という状況にはない。これは、町がこれらの学校に特色を持たせなかったことが原因と考えている。白萩西部小学校は、今年度は本来複式学級が2クラス生じるところであったが、町において単独で講師を確保したことにより、複式を解消し、各学年がそれぞれの教室で授業できることとなった。今後、こうした状況は、町内の他の小学校でも発生することが見込まれる。

少人数学級で、同級生と家族・兄弟感覚で接して、果たして競争心が湧くのか。その子供達のためにも、多くの同級生と一緒に授業する環境をつくるべきだと考える。私の意見に対し、皆様からの御意見をお聞かせいただきたい。仮に、小学校の統合を考える場合、町全体で1校又は2校に統合するのか。あるいは、小中一貫校、又は義務教育学校をつくるのか。皆様と一緒に考えていきたい。

(2) 説明「小学校の適正規模等への見解他」

牧田教育長、平井教育委員会事務局長より別紙資料及びスライドに基づき説明

(3) 質疑応答

発言者①

説明のなかで、義務教育学校についての例示を頂いたが、小中一貫校についての例示はあるか。

教育長

県内での小中一貫教育の例は、富山市の芝園小・中学校、舟橋村の舟橋小・中学校において実施されているほか、高岡市においても、先日高陵小学校が開校し、高陵中学校とあわせた小中一貫教育が実施される予定である。

発言者②

統廃合が行われた場合、地域の衰退を危惧している。また、統廃合することによって、学力の向上に寄与するのか。

少子化対策については、行政の取組だけではなく、地域においても取り組んでいくべきことだと思う。

小中一貫校については、上市町においても進めていくことを検討してはどうか。

町長

小学校の問題を考えるにあたっては、三つの立場がある。一つは教員の立場として、1学年・1クラスの適正規模がどれくらいなのかということ。二つ目は、保護者の皆さん（これから小学生の保護者となる方も含めて）の思い。三つ目は地域の皆さんの声であり、本日の懇談会等を通じて、どのようなお考えをお持ちか、確認する必要がある。

ある御意見として、小学校のあり方の前に、人口増対策を進めるべきという御意見をいただいている。それはそのとおりであり、町の新年度予算においても、住宅の新築等に対する助成の拡充や、町外から引っ越してきた新婚夫婦への助成等を盛り込み、人口増対策を進めていくこととしている。こうした取組の効果については、時間をかけてみていく必要がある。

今後、小規模校においては1年生を含めた複式学級が生じることが見込まれており、学力の基礎を身につけるべき1年生が、通常の半分程度の時間しか1年生相当の授業が受けられないという事態が生じる可能性がある。このような状況で、果たして責任ある小学校教育を行えるのか。皆さんと一緒に考えていきたい。

発言者③

資料9ページの南加積小の未就学児の数は、南加積保育園に現在通っている人数を元にしてしているのか。

教育委員会事務局長

そうではなく、南加積校区内に居住する人数を元に記載しており、南加積保育園以外の保育施設に通う児童もカウントされる。

発言者③

地域としては、小学校は大事な拠点として存続していただきたいと考えるが、仮に小学校がなくなった場合、地域の防災拠点としての役割については、どのように対応するのか。また、小学校の体育館で行われているスポーツ団体等への夜間開放については、どのように解決するのか。

町長

御指摘のとおり、学校、公民館等は町が避難所として指定しており、仮に統合したとしても、校舎等を壊すということは今のところ考えていない。また、小学校の体育館やグラウンドを活用した学校開放事業については、できるだけ利用者の要望に沿うような形で検討していく必要がある。

発言者④

地域のことも大事であるが、この問題については子供の将来を中心に考えることが一番大事であり、そのように考えた場合、私は、現状の学校の配置を維持していくのは難しいと考える。上市中央小学校、上市中学校いずれも老朽化しており、仮にこれらを建て替える場合、町民にも相応の負担がかかることになる。そう考えれば、小中一貫の学校として建て直し、町内の子供みんなが教育を受けるのもいいのではないか。

町長

これまでの懇談会で頂戴した御意見として、複式学級は絶対にいやだという御意見をいただいた。また、別に、町長は「学校の統合をするんだ」ということをはっきり言うべきだという御意見もいただいた。私は、個人の意見としては「統合やむなし」とはっきり申し上げている。しかし、私の意見をゴリ押ししても、それは決して町民の皆さんに納得していただいた形ではないので、皆さんの御意見をお聞きしながら、最後はみんなで決めましょうというのが私の考え方である。御参加の皆様から、一人でも多くの御意見をお聞かせいただきたい。

発言者⑤

地域の高齢者の集まり等に参加したときに話題になるのは、小学校時代の思い出である。人と人とのつながりは、小学校に集うことで生まれてくると思う。地元小学校があるということは、素晴らしいことではないか。本日の説明を聞いて、致し方ない面もあるとは思いますが、要望としては、（地元の小学校が）少しでも存続できればと。地元の小学校に通った子供が大人になり、地元をふるさとと思って残ってくれることが大事ではな

いか。お互いに思い出を語ることによって、地域に根差していくのではないか。

地元小学校があるということは非常にいいことであり、私自身、なくなればさみしいと感じる。どうにかして存続していただけないかと願う。

発言者⑥

小学校の統廃合は、将来的に考えなければならない。学校は、地域の政治・文化等の中心であり、これがなくなれば何を中心に住民は生活していけばよいのか、地域の絆が薄れてしまうのではないか。しかし、これも仕方がないと思っている。

この問題については、保護者や先生の意見を参考にして決めてほしい。仮に小学校が統合し、遠い学校へ子供を通わせるとなったとき、若い親達は利便性が悪いと感じてしまい、結果、地域の人口減少に追い打ちをかけることになるのではないかと危惧する。

統合については、老朽化している上市中央小学校を新築し、そこに町内すべての小学生が集まって勉強するのがよいのではないか。あるいは、小中一貫教育でもいいのではないか。十分に住民と話をして決めてほしい。

発言者⑦

子供達が、人とのつながり、子供同士の関わりを学ぶことは大事なことである。南加積小学校においても、将来、1クラス7人となる学年が見込まれているが、複式学級の可能性もあるというのでは、子供達がかわいそうである。ある程度の数の児童がいるなかで、いろんな体験をしながら、子供達に幅広い教育を受けてもらいたい。私個人の意見としては、将来的には、統合も考えていかなければならないのではないかと思う。

発言者⑧

南加積地区としては、できる限り、現在の小学校を存続してほしい。「統合やむなし」ということについて、理解はできるが、(統合の)条件が整うまでは、できる限り存続してほしい。

発言者⑨

小学校の統廃合は、ある程度はやむを得ないと考えるが、問題はどのようなやり方で行うかである。これまで全国で行われた統廃合は、街中の学校に田舎の学校を統合するやり方であり、魚津市でも行われていた。しかし、それによって、魚津市が本当に良くなっているのか。日本全国で、どのような結果を残したか。町において、その結果のメリット・デメリットをできるだけ調べていただいた上で、次のステップに進めてほしい。

スクールバスで児童が移動できるのであれば、田舎に学校があっても構わないと思う。町においても、上市中央小学校に何もかも集中させるというやり方ではなく、上市中央小の校舎が老朽化しているのであれば、例えば、その校舎を壊して別の施設をつくるとか、あるいは、民間に払下げをして再活用するというのもよいのではないか。新しい時代に即した統合のあり方を示していただきたい。

発言者⑩

前の方の御発言のとおり、町の中心に学校を建てなければならないということはないと思う。いろいろな方法を考えてほしい。

発言者⑪

上市町が今後も存続するという前提があるのであれば、上市中央小学校と上市中学校の校舎の建替えの問題は、避けては通れないと思う。そうであれば、おのずと、町内の小中学校を一つに集約させることは避けられないであろう。また、そうしていくべきである。

私案としては、新たに、同一敷地内に町内の小学生・中学生を集約するための校舎を一つつくる。場所は、町民グラウンドを利用する。いずれ、その校舎へ小中学校を集約させることとし、老朽化した上市中央小学校及び上市中学校の校舎は解体して、その跡地の宅地化を進める。集約するまでの間は、スクールバスを活用して、例えば、陽南小・白萩西部小の児童を南加積小に集約することで、複式学級を解消する。上市中央小の校舎は、使用できる間は存続するものとし、老朽化でどうしても使用が難しい場合は、宮川小へ通学いただく（鉄道を使用）。

南加積地区は、防災上地形的にも優位性があり、南加積小学校の校舎は、防災拠点として有効活用できると思う。南加積地区に小学校がなくなるのはさみしいことであり、学校は地域のよりどころでもあるのだが、そうとばかりも言っていないと思う。子供達のための建物は、どこかの時点で1つ建てるべきである。

町長

上市中央小学校と上市中学校の校舎は、建替時期にあるのは確かである。仮に建替えを行う場合、町内の学校を統合するか、しないか、(統合する場合は) 小学校を1校にするのか、2校にするのか、こうした議論をしっかりと上で、建設に着手する必要がある。それと、小学生・中学生を同じ建物のなかで、一緒に授業する環境におくのか、また、どこの場所で建て替えるのか、こうした問題についても皆さんと一緒に議論する必要がある。ただし、一挙に学校の場所まで決めてしまうというのは飛躍し

ており、場所については時期を改めて検討すべきと考える。

先程のスケジュールの説明（資料 17 ページ）に関して、このスケジュールのとおり進めていくのは極めて困難と考えている。上市中央小学校は、文部科学省の要請による教育用のタブレット及びインターネット環境の整備のほか、過去に耐震補強、トイレの洋式化、空調機器等の整備を行っており、それらに係る借金の残高が現在約 3 億円存在する。その他に、これらの事業に関し、国庫補助金も受けている。仮に校舎等を解体する場合は、これらの返還の問題が生じる。（このことも含めて）建替えの財源の確保という問題について、内部で検討組織を立ち上げるので、改めて皆様に検討状況等をお知らせしたい。

また、統廃合となった場合の、当分の間の小学校の利活用の問題もある。例えば、上市中央小学校を建て替える場合、校舎建設の間の児童の扱いについて、仮校舎を整備するという方法だけではなく、スクールバスを活用して学年ごとに他校へ振り分けるというのも一つの方法だと思う。この議論が加速するなかで、こうした利用方法についても検討させていただきたい。この検討にあたっては、保護者の理解もいただく必要がある。

今後、残りの校区においても懇談会を実施していくが、全体の意見をお聞きした上で、状況報告をさせていただきたい。

(4) 閉会挨拶（中川町長）

この小学校の問題については、私の方から問題提起をさせていただいた。富山市の水橋地区では、当局の提言ではなく、地元の自治会が市に対し、同地区の学校を統合して義務教育学校を建設するよう要望しており、現在その方向で準備が進められている。私は、色々なところで、多くの方が、地域の子供が減少しているなかで（学校の）問題について考えていただいていると思っている。地域から学校がなくなるというのは、本当にさみしい思いをすることであるが、子供により良い環境を提供する義務が大人にはあると考える。多くの子供達と一緒に、貴重な体験をしながら、学校生活を送るのも大事なことだと思う。

皆様には、引き続きこの問題に関心をお持ちいただき、御意見をお聞かせいただければ幸いである。

以上